

柳井嗣雄 TSUGUO YANAI

表象のペーパーアート

Representing Paper Art

小原和紙美術館

2024年11月1日(金) ~ 12月1日(日)

亡者の着物-失われた身体 2023年



Inside Out 230×190×300 cm 2014年



縛られたリゾーム 260×140×180 cm 2017年



リゾームの営み 550×150×6 cm 2023年



非在の壁 740×190×15 cm 2024年

柳井の制作活動は版画から始まった。(中略)柳井が紙素材の表現にのめり込んで行くのもまた自然な成り行きであった。埼玉県小川町をはじめとして全国の和紙工房を訪ね歩き、さまざまな技法を体得していった。山梨県の身延町では、伝統的な「西嶋和紙」の組合に入り込み、職人たちの協力のもとに作業を行った。また小川町で知り会ったリチャード・フレイビンからは、日本人の視点を越えた和紙の用途の幅広さを示唆されたという。

職人たちと作業を共にするうち、柳井は「紙をすくという技術ではなく、紙を構成する繊維素材そのものに興味を抱くように」なったと書いている。紙とダイレクトに向き合う人々の中であって、紙で何かを作るというより、紙そのものから立ち現れてくる生命感のようなものに心酔していったのだ。そのことで「紙の原点に戻ろうとしている自分に気付かされた」と回想する。

松永 康 (アートコーディネーター)



記憶と情念-中嶋夏へ 250×130×30 cm 2024年

柳井 嗣雄 (美術家/和紙造形)

1953年 山口県生まれ。1977年 創形美術学校版画科卒業する。1978-80年 スタンリー・W・ヘイターに師事(アトリエ17、パリ)。「'80年より銅版画家としてスタート。版画用紙を自ら漉き始めたのをきっかけに1985年より紙の作品制作、ペーパーワークを開始。物の在り様を、風化して消えてゆく物質的存在と、記憶やイメージとして現れる精神的存在とし、「物質と生命の記憶」をテーマにしたインスタレーション作品を特長とする。

「白州・夏フェスティバル」、「和紙のかたち」(練馬区立美術館)、「紙と現代美術」(イタリア)、「第1回アジア パシフィック トリエンナーレ」(オーストラリア)、「Nature-素材と表象」(イスラエル)、「国際ペーパーアート&シンポジウム」(台湾)、「Paper Object Festival」(ラトビア)など出品多数。現在は飯能市でPAS和紙アートスタジオ主宰。楮栽培から原料作り、様々なペーパーワーク技法の研究、開発、指導を行う。

柳井嗣雄 表象のペーパーアート Representing Paper Art

会期:2024年11月1日(金)~12月1日(日) ※会期中の休館日:11月11日(月)

開館時間:9:00~17:00 (入館は16:30まで)

会場:豊田市小原和紙のふるさと

小原和紙美術館

〒470-0562 豊田市永太郎町洞216-1

電話:0565-65-2151

<https://www.washinofurusato.jp>

Webサイトはこちらから →



観覧料: 一般 200円

(有料入館者20名以上の団体は1人150円)

※豊田市内在住の18歳以下と70歳以上、豊田市内在住または豊田市内の高校に通学する生徒、身体障がい者手帳等の交付を受けている方は無料。(要証明書)



【交通案内】

とよたおいでんバス:豊田市駅から上仁木行きで約60分
「和紙のふるさとバス停」下車/車:猿投グリーンロード
中山I.C.から 国道419号線を北へ約15km



令和6年度 文化庁

文化庁

文化芸術創造拠点形成事業

主催:豊田市小原和紙のふるさと

プロデュース: PAS和紙アートスタジオ《Paper Art Studio》